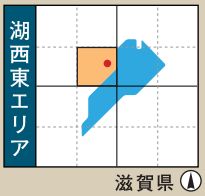
史跡
県指定

稲荷山古墳（いなりやまこふん）

高島町鴨　昭和39年8月19日指定



稲荷山古墳は、安曇川と鴨川が形成した沖積平野のほぼ中央に位置する前方後円墳と考えられる古墳です。明治35年に発見され、その後、大正12年に行われた本格的な調査では、大陸との関係をうかがわせる豪華な遺物が出土し、注目されました。

当時のできごと	
478年	倭王武 宋に上表文を送る
527年	国造磐井反乱を起す
538年	仏教伝来



石棺の出土状況

概説

明治35年の県道拡幅工事の際に発見された古墳で、全長が35m～45m程度の前方後円墳と考えられています。後円部に当たるところに長さ約9m、幅約1.8m、高さ約1.8mの特異な形をした横穴式石室があったと伝えられています。石室内部には、奈良・大阪の境に座す二上山産の凝灰岩を刳り抜いた家型石棺が納められており、棺内からは金銅製の装身具を始めとする、大量の副葬品が出土し注目されました。築造の時期は棺外から出土した須恵器の年代から、6世紀前半代と考えられています。

この古墳は、大正12年に京都大学の手により詳細な調査が行われ、その成果がまとめられ、後期古墳の標識的な遺跡とされています。



家型石棺



出土品の復元（金銅製沓）



出土品の復元（金銅製冠）

棺の中の副葬品

石棺の中は、発見されたときには真っ赤な朱が塗られていたと伝えられています。中からは、金製耳輪および垂下飾、金銅製冠、金銅製沓などの装飾品、鹿角製柄頭附鉄大刀などの利器類、馬具類が出土しています。これらの出土品は、大陸との交流をうかがわせるものであり、遺物の構成は山津照神社古墳（学習シートNo.061）や、豪華な副葬品で有名になった奈良県斑鳩町藤ノ木古墳と類似します。

古墳の主

古墳の主を特定することは非常に困難なことですが、稲荷山古墳の場合、前方後円墳の分布の乏しい高島郡にあり、6世紀前半の築造であることや、遠方より運ばれた石棺の中に納められた、大陸との交渉をうかがわせる非常に豪華な副葬品などから、継体天皇の擁立に深く関わった、三尾（みお）氏の墓である可能性が非常に高いと考えられます。

［継体天皇］

『日本書紀』によれば、450年に生まれ、531年に没しています。武烈天皇の後に即位し、在位は507年から531年。父は近江の豪族彦主人（ひこうし）、母は越前三国の振媛と伝えられます。謎の多い天皇で記録にも疑問が残りますが、近江、越前に勢力を持つ豪族が連合し、武烈天皇没後の朝廷の混乱に乗じて擁立したのが、継体天皇と考えられています。

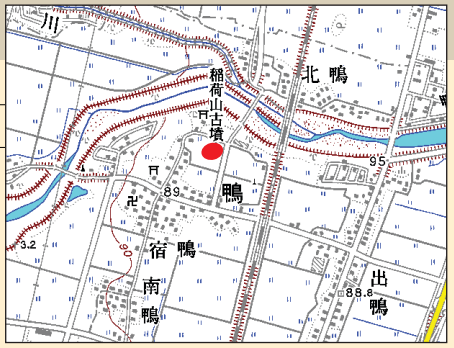
稲荷山古墳に隣接する安曇川町には、彦主人王の墓と伝えられる田中大塚古墳の他、振媛が継体天皇を生むときにもたれた「安産もたれ石」、継体天皇の胞衣を埋めた「胞衣塚」など楽しい遺跡が残ります。

関連する文化財

大岩山古墳群（野州町）	学習シートNo.023
鴨遺跡（高島町）	高島郡衙と推定される古代の官衙遺跡。銅印を始めとする役所関係の遺物が出土している
王塚古墳（今津町）	学習シートNo.070

もっと深く知りたい

高島町歴史民俗資料館	☎0740-36-1553	高島郡高島町鴨2239
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678



稲荷山古墳へのアクセス　JR湖西線　近江高島駅下車

【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔20世紀近江発掘ベスト10展〕滋賀県教育委員会
〔滋賀縣史蹟調査報告1～12〕滋賀縣保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月